

青森県内の受験者数と受験率・第2日

会場名 (受験者数)	科目別 受験者数	理科① (受験率%)	数学① (受験率%)	数学② (受験率%)	理科② (受験率%)
八戸工大 (871)		317 (36.4%)	744 (85.4%)	685 (78.6%)	421 (48.3%)
八戸学院大 (470)		205 (43.6%)	446 (94.9%)	434 (92.3%)	258 (54.9%)
北里大 (500)		173 (34.6%)	435 (87.0%)	362 (72.4%)	246 (49.2%)
弘前大 (田名部高含む) (1564)		733 (46.9%)	1477 (94.4%)	1375 (87.9%)	941 (60.2%)
青森公立大 (353)		144 (40.8%)	325 (92.1%)	251 (71.1%)	182 (51.6%)
県立保健大 (225)		81 (36.0%)	194 (86.2%)	100 (44.4%)	69 (30.7%)
青森大 (356)		119 (33.4%)	305 (85.7%)	262 (73.6%)	176 (49.4%)
中央学院大 (373)		132 (35.4%)	316 (84.7%)	272 (72.9%)	154 (41.3%)

※受験率は小数点第2位を四捨五入。理科②は、1科目受験者と2科目受験者の合計数

センター試験 全日程終了

一山越え受験生安堵

青森県内9会場
大きな混乱なし

大学入試センター試験は15日、理科と数学を実施し、2日間の日程を終了した。青森県内9会場では期間中、心配された雪の影響による大きな混乱はなかった。一山越えた受験生たちは安堵の表情を浮かべつつも、2次試験に向けて気持ち

があり、各会場で訂正内容を説明。簿記・会計でも問題文に補足があった。会場となった八戸学院大(八戸市)では午後5時50分ごろ、最後の科目を終えた受験生たちが、ほっとした様子で試験場から次々と出てきた。



大学入試センター試験を終えて会場を出る受験生＝15日、八戸学院大

不正06年以降最多12人

時刻繰り下げ
5府県14会場

大学入試センター試験は2日目の15日、全国691会場で理科と数学を実施し、全日程を終えた。センターは今回、6道県7会場ですmartフォンの使用な

ど12件の不正行為があり、集計のある2006年以降で最多の男女計12人を受験全科目無効としたと発表した。大雪に伴う交通の乱れな

どで、15日は5府県14会場が受験生全員の試験開始時刻を1時間繰り下げた。雪のために繰り下げた会場数としては過去10年間で最も多く、約1万人に影響した

八戸北高の女子生徒(18)は「いつも通りの力を出せた」と充実の表情。一方で「模試ではいつも志望校にギリギリの判定なので、自己採点が少し怖い」と話した。八戸高の男子生徒(18)は「数学Ⅱ・数学Bで時間

が足りなかったが、他は納得のいく手応え。しっかりと2次試験の対策をした」と気を引き締めていた。全国の志願者数は1万2

1999人増の57万5967人。平均点の中間発表は18日、得点調整の有無の発表が20日、平均点の最終発表は2月2日を予定する。(金澤一能、佐藤雄)

とみられる。兵庫大など3会場で、大幅に到着が遅れた受験生計5人が再試験の対象となり、14日と合わせ、雪による再試験対象者は計79人となった。一部受験生を別室受験させる会場が相次ぎ、福島大も列車故障の影響で1時間繰り下げた。センターによると、愛知県では14日、受験生が地理歴史・公民の問題冊子の下にスマートフォンを隠し、事前に撮影した教科書の画像を見ていた。外部との通信は確認されず、問題の漏えいはないという。15日には北海道で、同一会場で簿記・会計を受けていた6人が電卓を使用。千葉、石川両県では数学の試験中、定規の使用が見つかり、富山、愛知両県では試験終了後も鉛筆や消しゴムを使いマークシートを修正する不正があった。神奈川県では、受験票を机の上に出さなかった受験生が不正と判断された。雪以外の会場トラブルなどで再試験の対象となったのは14、15日合わせて207人だった。